令和４年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取組について

武雄市立武雄小学校

1　児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	５年時	６年時	５年時	６年時	５年時	６年時
H29 入学 現６年生	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）
	62.5	61	39.3	55		54
	(1.07)	(0.95)	(0.93)	(0.89)		(0.87)
R４正答率の全国比		0.92		0.87		0.85

◎５年時は佐賀県学習状況調査、６年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を１としての比較。

◎「令和４年正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○　現６年生

・５年時では国語では県平均を+0.07 上回っていたが、６年時では国語は県比-0.05、全国比-0.08 とほぼ同程度であった。算数は県比-0.11、全国比-0.13、理科は県比-0.13、全国比-0.15 と大きく下回った。

・国語の内容別正答率では、「言葉」「話す・聞く」は県・全国平均とほぼ同程度であったが、「書く」は 51%、「読む」は 58.7%と正答率が低かった。特に「書く」は無答率も高く 20%前後あり、目的に応じて文章と資料を結び付け必要な情報を見つけたり、中心となる言葉や文を見つけ要約したりすることに指導の重点をおかなければならない。

・算数では、記述式の問題が正答率 49.5%で、県比・全国比と比較して-11%と落ち込んでいる。領域別では、「図形」（56.6%）「変化と関係」（43.4%）について課題がある。特に、割合や比例の補充学習の必要がある。

・理科の領域別正答率では、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の 4 領域ともに、県比・全国比を下回った。特に「地球」領域では正答率 51.4%で県比-11.2、全国比-13.2%と大きく落ち込んでいる。実験・観察で得た結果を分析して自分の考えを持ったり、それを記述したりする力を育成する必要がある。

・意識調査では、「学校の授業の予習や復習をしている。」児童の割合が 75.5%と県・全国平均を上回っている。これは、日々の課題や高学年での「自学」の習慣が定着していることの表れである。また、「自分で決めたことをやり遂げようとしている。」児童も 85.7%と目指す子ども像である「やり抜く力の育成」の効果が表れてきている。

2　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・「めあて」から「まとめ」「振り返り」に至る一連の西部型学習過程を基本とし、どの教科においても実施する。児童自ら問題解決していく過程を大切にすると共に、自分の考えやその根拠を伝える力を付ける授業づくりを更に継続していく。

・ICT 機器の整備については、環境に恵まれている。１人１台タブレット端末、電子黒板など、今後も大いに活用した授業作りを進める。本校の校内研究のテーマである「１人１台タブレット端末を活用した授業改善」を進めることで協働的な学びや個別・最適化に向けた授業づくりを図っていく。

・算数科を中心に TT や少人数指導を継続し指導方法の改善を図っていく。それとともに個別の対応の機会を増やし児童の学習理解度を高める。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

・「家庭学習ノート」（自学）を主として高学年で継続して取り組む。よく書くことができている児童のノートを称賛したり、手本となるノートを掲示したりする。また、全学年の「たけおっ子ノート名人コーナー」をつくり、ノートの取り方の参考にさせる。

・「学力向上タイム」を定期的に実施する。県や国の学習状況調査の過去問題に取り組ませ、解説をする。問題形式に慣れさせるとともに、じっくり問題に取組やり抜く力を育成する。

・週3回の「花まるタイム」により、語彙力や視写力、計算力、空間認識力などを身に着けさせる。

令和４年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取組について

武雄市立御船が丘小学校

1　児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	５年時	６年時	５年時	６年時	５年時	６年時
H29 入学 現６年生	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）
	55.3	64	43.5	65		59
	(0.95)	(1.00)	(1.03)	(1.05)		(0.95)
R４正答率の全国比		0.98		1.03		0.93

◎５年時は佐賀県学習状況調査、６年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を１としての比較。

◎「令和４年正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

・全体の正答率は県平均と同じである。

・内容では、「話すこと・聞くこと」において 5 ポイント県平均を上回っている。

・問題形式では、短答式の問題において 5.1 ポイント県平均を下回っている。

・県に比べて、無解答率の高い問題が多い。

【算数】

・全体の正答率及び領域・評価の観点・問題形式のすべてで、全国と県を上回っている。

・領域でみると、「データの活用」において 7.1 ポイント県平均を上回っている。

・除法で求めることができる理由を記述する問題での無解答率が高い。

【理科】

・対県比 0.95、全国比 0.93 と、ともに下回っている。

・領域でみると、「A エネルギー」および「B 生命」においては、県と全国を上回っているが、「A 粒子」においては、8.7 ポイント県平均を下回っている。

・問題形式では、短答式の問題において 12.9 ポイント県平均を下回っている。

・メスシリンダーの名称を答える問題では、正答率が全国６７％に対して本校は２６％と大きく下回った。また、ビーカーと答えた児童が１６％、試験管と答えた児童が１２％、無解答が２０％であった。

【意識調査】

・平日に３時間以上ゲームをしている児童は、全国と県が３０％であるのに対して、本校は４２％であった。１０９人中４６人が平日３時間以上ゲームをしているという結果であった。

・ゲームを除く平日の動画視聴では、２時間以上見ている児童が４１％であり、全国３３％、県３３％と比べて大きく差があった。

・平日の授業以外の学習時間では、３０分未満の割合が２８％であった。全国１５％や県１５％と比べても高く、土日の学習時間でも、１時間未満の割合が５７％と高い割合であった。

2　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・学力向上対策評価シートの共通実践では、「教育の質の向上に向けた協働的な学びの充実」を設定している。校内研究を活用し、学力向上に向けて全職員で授業改善に取り組む。
・学年・領域ごとに応じた個別最適な学びや一人一台端末の活用方法を取り入れた授業実践を行う。
・問いに対して自分の考えをもつことができるような手立てを工夫する。
・交流の中で児童が理解を広げたり深めたりすることができるような問い返しを行う。
・学び合いの仕方、手立てのあり方や主体的・対話的な学びを促す発問や働きかけの工夫を取り入れる。
・容器の名称や使い方については、具体物に触れる時間を多く確保し、児童が使い慣れることで身に付けさせたい。また、デジタル教科書や動画など、ICT も活用しながら使い方の定着を図りたい。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

・ゲームや SNS、動画視聴に使っている時間の割合が多く、学習時間が短いことが分かった。スマホやタブレットとの付き合い方について、情報安全教室や道徳など保護者と連携しながら取り組んでいく必要がある。
・家庭学習の時間が県や全国よりも短いことから、家庭での時間の使い方や家庭学習への取り組ませ方にも工夫をする必要がある。

令和４年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取組について

武雄市立朝日小学校

1　児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	５年時	６年時	５年時	６年時	５年時	６年時
H29 入学 現６年生	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）
	57	51	39	53		50
	(0.98)	(0.80)	(0.92)	(0.85)		(0.81)
R４正答率の全国比		0.78		0.84		0.79

◎５年時は佐賀県学習状況調査、６年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を１としての比較。

◎「令和４年正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

・12 月調査からすると、県との比較で国算ともに落ち込んでおり、理科も対県比 0.81 と、3 教科ともに厳しい結果となった。全ての内容・領域で県平均を上回っているものはなく、課題は多い。

・国語は、内容別ではどの内容も対県比 8 割程度にとどまっている。問題形式では選択式は対県比 9 割であるが、記述式は 6 割と低く、問題文に即して文章で書き表すことに抵抗が大きい。

・算数は、領域別では「数と計算」「データの活用」が対県比 9 割と比較的よくできており、「変化と関係」が低い。問題形式では国語同様の結果であり、文章表現の苦手な児童の多いことが伺える。

・理科は、領域別ではどの領域も対県比 8 割程度にとどまっている。問題形式では記述式が比較的よくできており、短答式の正答率が低い。ある 1 問の正答率 25.4%が響いているものである。

2　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・算数科においては、4・6 年は週 5 時間、2・3・5 年は週 2～4 時間を TT による授業に充てている。担任と加配教員が話し合って T1 や T2 を担ってきめ細やかな指導をし、昼休みにも個別の指導に当たる。

・今年度も学力向上推進教員の配置を受けて、教職経験の浅い担任の学級や、個別支援を要する児童が多い学級で指導に尽力している。国算の示範授業も積極的に行い、教員の指導力向上に寄与している。

・校内研究、ICT オープンデー、市教研等の授業研究の機会を逃さず、全体や低中高 G での教材研究に熱心に励んでいる。UD の視点や ICT 利活用を取り入れた分かりやすい指導方法を模索している。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

・「立腰」する短時間を日々の生活に位置付け、落ち着いて学習に臨むことを目指す。

・毎月「筆箱チェック週間」を設定し、基本的学習習慣の定着を図る。

・市の取組である「花まるタイム」を火・木・金の朝に位置付け、級外も共に指導に当たっている。15 分間に音読、図形、視写、計算にテンポよく取組、年間 80 回の実施で学力向上の一端を担っている。

・3 年以上は週 2 回の自主学習ノートの提出で主体的に学ぶ力の育成を図っている。ノートの点検や優秀なノートの掲示等は級外職員とし、全職員あげての取組である。

・「家庭学習の手引き」「学力向上便り」を配布し、保護者へ家庭学習の大切さを訴えている。

令和４年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取組について

武雄市立若木小学校

1　児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	５年時	６年時	５年時	６年時	５年時	６年時
H29 入学 現６年生	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）
	59.5	70	50.4	65		63
	(1.02)	(1.09)	(1.19)	(1.02)		(1.01)
R４正答率の全国比		1.07		1.03		1.00

◎５年時は佐賀県学習状況調査、６年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を１としての比較。

◎「令和４年正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

・学習状況調査については、国語、算数、理科のいずれの教科も県・国と同等かそれ以上の結果が出ていた。内容についても、特に大きく落ち込んで気になるような部分は見られなかった。また、意識調査についても、内容は非常に前向きな回答が多かった。ただ、ゲームや SNS 視聴の時間が長い児童が若干名見られたので、指導をしていく必要がある。

2　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・学習にまじめに取り組んでおり、どの教科に関してもよく理解ができているが、１１人という少人数にも関わらず、個人差が非常に大きい。個別指導が必要な児童がいるので、配慮をしながら学習を進めていく必要がある。また、問題文をきちんと読んで理解するための指導は引き続き行っていきたいと思う。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

・よりよい集団つくりや、よりよい自分の成長を目指して、自主性のある児童の育成を目標とした指導を行っていることもあり、意識調査でも学級や集団に対する前向きな回答が多かった。これからも、教え合ったり助け合ったりしながら学習にも生活にも取り組んでいくよう継続して指導を行っていきたい。

令和４年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取組について

武雄市立武内小学校

1　児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	５年時	６年時	５年時	６年時	５年時	６年時
H29 入学 現６年生	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）
	61.5	68	47.0	63		64
	(1.05)	(1.06)	(1.11)	(1.02)		(1.03)
R４正答率の全国比		1.04		1.00		1.01

◎５年時は佐賀県学習状況調査、６年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を１としての比較。

◎「令和４年正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

・国語科では、「知識・技能」は高く、「思考・判断・表現」がやや低くなっている。

・算数と理科では、どの領域でも全国平均と同等かそれ以上の正答率となっている。

・記述式の回答（思考力・判断力・表現力）について、国語では全国平均と比べて 1.3 ポイント低く、算数では 5.7 ポイント高く、理科では 1.8 ポイント低い結果となり、ばらつきが見られた。

・家庭学習では、自分で計画を立てて取り組んでいるものの、学習する時間は全国平均と比べて少ない結果となった。

2　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・記述式の問題に対しては、教科によって正答率に偏りが見られた。予想を立てて話し合ったり根拠や理由をもとに表現したりする活動を取り入れていく。

・毎時間の授業において振り返りを発表する時間を設定し、自分の考えを表現したり友だちの意見を聞いたりし、考えを深めることができるようにする。

・身に付けた理解が曖昧になっている部分もあるので、定期的に復習する必要があると考える。

・具体的な場面をもとに問題の意味をとらえさせたり、児童が出した解答に対し意味を問いかけたりし、解答を出すまでの過程に目を向けさせる。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

・家庭学習を充実させるため、自主学習を推奨する。全校で自主学習コンテストを行ったり、自主学習週間を設定したりし、家庭学習へ取り組む意識を高めていく。

・携帯電話やスマートフォンでＳＮＳや動画視聴などに時間を取られている児童がいる。文書などを用いて家庭の協力を求めつつ、生活習慣を改善していくよう働きかける。

令和４年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取組について

武雄市立西川登小学校

1　児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	５年時	６年時	５年時	６年時	５年時	６年時
H29 入学 現６年生	県 (12 月)	全国 (４月)	県 (12 月)	全国 (４月)	県 (12 月)	全国 (４月)
	68.0	72	48.9	60		71
	(1.16)	(1.12)	(1.15)	(0.96)		(1.14)
R４正答率の全国比		1.09		0.94		1.12

◎５年時は佐賀県学習状況調査、６年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を１としての比較。

◎「令和４年正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○「国語」「理科」は平均正答率が県・全国を上回った。

●「算数」で課題が見られた領域は「図形」「変化と関係」である。特に「変化と関係」は県を 10.7 ポイント，全国を 12.4 ポイント下回っており，第５学年での学習「割合」について系統的な指導の工夫が必要である。

●「国語」は平均正答率が全国とは同等だが，県を 4.7 ポイント下回っており，「我が国の言語文化に関する事項」に課題が見られた。

●地域とのつながりが強い地域性であるにもかかわらず,「地域社会をよくするために何をすべきか考える」の肯定的回答が 20%であり，県・全国と比較しても低い。

2　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

●各教科とも，正答数に個人差が見られたことから，個に応じた指導の工夫が必要である。

●算数科では，算数用語，図，式を使って自分の考えをノートに書く指導を継続していく。特に，算数用語や図の書き方の確実な習得と，それらを的確に使って表現し分かりやすく伝える方法を身に付けさせるようにする。

●プログラミング的思考の育成のため，朝のタブレットタイムにおいてタイピングやドリル以外の活用方法を全学年で共有して取り組む。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

●サマースクール（8 月 23，24 日）を開催し，夏休みの課題の補充指導を行う。

●家庭学習強化週間を年 2 回（9 月，11 月）設定し，家庭学習の定着を図るとともに，家庭の教育力の向上を目指す。

●地域と関わる教育活動（総合的な学習の時間，社会科など）の充実に努める。

令和４年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取組について

武雄市立東川登小学校

1　児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	５年時	６年時	５年時	６年時	５年時	６年時
H29 入学 現６年生	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）
	６１．９	６５．０	４４．３	６３．０		６３．０
	（１．０５）	（１．０１）	（１．０４）	（１．０２）		（１．０２）
R４正答率の全国比		０．９９		０．９９		０．９９

◎５年時は佐賀県学習状況調査、６年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を１としての比較。

◎「令和４正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

・5 年時から 6 年時の推移を見ると、5 年時との比較では 0.04 ポイント下がっているが、6 年時の結果は県平均より 0.01 ポイント高く、全国平均を 0.01 ポイント下回る結果であった。

・漢字や言語文化に関する事項については全国、県平均を大きく上回っている。

・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えるなど「話す・聞く」の事項が県・全国平均を下回った。

【算数】

・5 年時から 6 年時の推移をみると、5 年時との比較では 0.02 ポイント下がっているが、6 年時の結果は県平均より 0.02 ポイント高く、全国平均を 0.01 ポイント下回った。

・比例・最小公倍数・表の意味の理解を問う問題が平均を上回っていた。問われていることを的確に理解して答えることができている児童が多い。

・割合（百分率）の正答率が県・全国平均を大きく下回った。

【理科】

・県平均と比較すると 0.02 ポイント上回り、全国平均を 0.01 ポイント下回る結果であった。

・問題を的確に把握し、実験の過程や得られた結果を適切に判断するなど、「思考・判断・表現」の観点が県・全国平均を上回った。

・実験器具名に関することや、昆虫の体のつくりに関する問題など、「知識・技能」の観点が県・全国平均を下回った。

【意識調査】

・規範意識が高く（いじめは許されない、各教科の学習は大切であるなど）将来の夢や希望を持っている児童が多い。

・自然に親しむ姿勢や地域の行事に積極的に参加している児童が、県・全国よりも多かった。

・自己有用感と大人に相談しようという気持ちが低い。

・家庭での学習時間が少なく、生活や学習を計画的にしていない。

・ゲームや動画視聴などのメディア遊びの時間が、県・全国平均よりも長かった

2　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

（１）各教科で話し合う活動の経験を増やし、質問する力や自分の考えをまとめる力を身に付ける。
（２）算数では、テープ図や線分図を自分でかく指導を継続的に実施する。
（３）日常の授業で、資料や実験結果の記録から考察する際に、児童から自分の考えを引き出し、吟味させる時間を確保する。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

・実態（家庭学習の短さ、ゲームや動画視聴等の長さ）を保護者に伝えて、家庭の協力を得ながら生活習慣の向上を図る。→生活学習計画表などの作成、実施。
・語彙力、読解力をつけるために、読書活動を推進する。（学校図書館利用を取り入れた活動を増やす）
・理科への関心を高めるための、環境整備や情報及び話題の提供。

令和４年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取組について

武雄市立橘小学校

1　児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	５年時	６年時	５年時	６年時	５年時	６年時
H29 入学 現６年生	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）
	５９．９	６６	４４．２	６５		６３
	（１．０３）	（１．０３）	（１．０４）	（１．０５）		（１．０２）
R４正答率の全国比		１．０１		１．０３		１．００

◎５年時は佐賀県学習状況調査、６年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を１としての比較。

◎「令和４年正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○国語、算数ともに全国平均・県平均を上回り、理科は全国平均とほぼ同等である。

○算数と理科の学習を好きな児童が多いが、国語の学習はあまり好きではないと半数以上が回答している。

○国語については、「読むこと」「書くこと」の正答率が高いが、「話すこと・聞くこと」は正答率が著しく低い。

○算数については、領域別でみると「変化と関係」、評価の観点別にみると「思考・判断・表現」の正答率が低い。

○理科については、「エネルギー」を柱とする領域や「地球」を柱とする領域の正答率が低い。

○三教科ともに無回答率が低く、できそうなことはあきらめないでやり通すことはできるが、自己肯定感の低い児童が多く、難しいことや失敗しそうなことに対しては挑戦することを避けてしまう傾向にある。

2　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

○国語では、話す場面や聞く場面において、明確で児童がつかみやすいめあてを提示することにより、児童が迷うことなく学習活動に取組、確実な習得につながるようにする。

○算数では授業の「考える」段階で言葉を使って説明する時間を確保し、「考え合う」段階で多くの説明の仕方に触れさせ、再度自分で説明する時間を設ける。

○理科では、実際の実験・観察に合わせ、タブレット端末を活用し、幅広くより深い探求ができる場を持つ。

○自分の考え等を発表する機会を多く設け、自信をつける機会にする。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

○これまで以上に帰りの会などでスピーチする場面を設け、そのテーマやスピーチ形態等を工夫する。

○家庭学習において、各教科について身に付けさせたい内容の課題を意図的に設定し、継続して取り組ませる。

○児童が活躍できる場を精選し、一人一人が挑戦できる場を設定し、様々な児童にチャレンジさせる機会を持つ。

○学校生活の様々な場面で、全校児童の前に立って発表する機会をつくり、やり遂げさせるようにする。できる限り称賛し誉めて自信を持たせていく。

令和４年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取組について

武雄市立山内東小学校

1　児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	５年時	６年時	５年時	６年時	５年時	６年時
H29 入学 現６年生	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）
	59.4	57	44.2	61		52
	(0.94)	(0.89)	(0.85)	(0.98)		(0.84)
R４正答率の全国比		0.87		0.97		0.82

◎５年時は佐賀県学習状況調査、６年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を１としての比較。

◎「令和４年正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査の結果から】

国語科については全国比で 0.87 と全国よりも低い。観点別では「思考・判断・表現」が低い結果であった。領域では「話す・聞く」「読むこと」が全国との差が大きい。特に課題が見られた問題は、「登場人物の気持ちや行動を叙述を基にとらえる」「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」であった。読みの指導においては、叙述を基に考えていくことが基本である。また、この２つの問題はいずれも当てはまる答えを２つ選ぶ問題であったが、１つの答えは選べているがもう１つが選べていないために正答にならないという状況が多く見られた。

算数科においては、全国比で 0.97 と全国の平均とほぼ同じである。観点別では、「思考・判断・表現」が全国と比べてやや低い結果であった。特に課題が見られたのは、「割合」の問題で、「百分率で表された割合を分数で表すこと」「数量が変わっても割合は変わらないこと」であった。「割合」の学習は依然として児童にとって難易度の高い内容である。算数科の結果については、昨年度の県学習状況調査の結果と比較すると、大きく向上している。少人数指導やＴＴ指導に取り組んできた成果が出たものと考えられる。

理科については、全国比で 0.82 と全国よりも低い。観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現力」で低い結果となっている。問題内容を見ると、３・４年生の学習内容からの出題が多かったものの、単に知識を問う問題は少なく、学習問題の設定、実験方法の妥当性、結果のまとめ方など理科学習の学び方に関する問題が多かった。学習指導において、結果としての知識・理解だけを重視するのではなく、学び方の指導を今後大事にしていく必要がある。

【意識調査の結果から】

全国と比べてポイントが高かった項目は、生活に関する項目では、「朝食を毎日食べているか」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しているか」「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあるか」「今住んでいる地域の行事に参加しているか」などであった。反面「毎日同じくらいの時間に寝ているか」「自分には良いところがあるか」などについてやや低い結果となった。

学習に関する項目では、「学習で PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度利用しているか」「友達と意見交換をする場面」や「自分の考えをまとめ、発表する場面」で「ICT 機器をどの程度利用してい

るか」などICT機器の利用に関する項目が高かった。反面低かった項目は、「自分と違う意見について考えるのは楽しいか」「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」「土日など学校が休みの日にどれくらい勉強しているか(塾なども含む)」など授業中の学び合いや家庭学習に関する項目であった。

2　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1　西部型授業の充実を通して、主体的な学習態度を高めていくこと

・「授業づくりのステップ１・２・３」を活用し、「めあて」「まとめ」「書く活動」「話し合う活動」「ふりかえり」のステップを意識した授業を継続して実践する。

・国語科では、読み取る際に根拠となる叙述にサイドラインを引いたり、キーワードを抜き出したりして、叙述にかえる指導が有効である。物語文の読み取り、論理的な文章の読み取りなど文章に応じた読み取りの技能を意識して指導を行うことが必要である。

・算数科では、問題文を読んで、問題場面を具体的にイメージすることが重要である。問題把握をしっかりさせるために、分かっていること、問われていることなどに、下線を引いたり、絵や図に表したりしながら問題を理解させる。

2　書く活動の充実と協働的な学習の充実

・西部型授業とも連携し、自分の考えをノートやワークシートに書く場を積極的に取り入れていく。書く際には、文章だけでなく絵や図、式など多様な表現方法に広げていく。

・書いたことを発表に生かし、グループや全体の場での錬り合いを通して、それぞれの考えを高めていくことで伝え合う楽しさを育てていく。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

1　家庭学習の充実を図り、児童によりよい生活習慣や学習習慣を身につけさせる。

・各学年で家庭学習の内容や学習時間を共通理解し、生活チェックカードを利用し、家庭学習の定着を図る。

・自主学習を推奨し、児童の自主学習ノートを紹介し合い、自主学習の内容を高めていく。

2　読書の充実

・家庭での読書を奨励し、読書も家庭学習の１つとして位置付ける。週末において、読書に取り組むよう声かけを行う。

令和４年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取組について

武雄市立山内西小学校

1　児童の実態

(3) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	５年時	６年時	５年時	６年時	５年時	６年時
H29 入学 現６年生	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）
	59.0	61	36.7	49		53
	(1.01)	(0.95)	(0.87)	(0.79)		(0.85)
R４正答率の全国比		0.93		0.77		0.83

◎５年時は佐賀県学習状況調査、６年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を１としての比較。

◎「令和４年正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(4) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

・本校は、県平均と比較して、国語、算数、理科のすべてにおいて下回っていた。特に算数は１３ポイント、理科は９ポイントと大きく下回っていた。

【国語】

○「言葉の特徴や使い方」「話すこと・聞くこと」の正答率は県や全国を上回った。

▲「読むこと」は 47%、「我が国の言語文化に関する事項」は 68%の正答率で下回った。
　物語文の読解力が弱く、婉曲表現を読み取る力が弱い。

▲記述式の無回答率が高い。

▲文字の大きさや配列に注意して書くことの問題では、初見の問題であったためか正答率が低い。

【算数】

▲領域ごとの正答率が、「変化と関係」は 39%、「図形」は 43%、「データの活用」は 50%と下回った。

▲記述式の無解答率が高い。

▲割合の理解が不十分で誤答が多い。

▲問題文の情報量が多く、必要な情報を選択したり処理したりすることができていない。

▲プログラミングで作図する問題では、実際に作図する仕方と違うため誤答が多い。

【理科】

▲領域ごとの正答率では、「エネルギーを柱とする領域」が 40%と下回った。

▲「メスシリンダー」の器具名の誤答や無解答が多かった。

▲自分の考えをもち、その内容を記述する問題は無解答が多い。

▲昆虫の問題では、形式が違う表を比較することができず、誤答が多い。

【意識調査】

・「ゲーム、スマホ、動画視聴」では、１日平均４時間以上使用している児童が全国平均より多い。また、週末や放課後の過ごし方でも、テレビ・ゲーム・ＳＮＳが 86.4%である。

・学校の授業以外に１日の学習時間が１時間以上は、県や全国を大きく上回っている。

・新聞を読んでいる児童は、全国平均を上回っていて、読書も多くの児童が読んでいる。

・国語や理科の勉強が好きと答えた児童は多く、算数は好きと答えた児童と嫌いと答えた児童が多い。

・わからない問題はあきらめずにいろいろな方法を考えると答えた児童は全国よりも低く、全く考えないという児童もいる。

２　改善に向けた具体的な取組

(2) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・【授業改善の取り組み】
「授業づくりステップ１２３」のステップ３を目指して授業づくりを行うようにし、チェックシートの振り返りをすることで、授業改善の意識の継続を図る。その中で、ステップのポイントが低い「まとめ」や「振り返り」を児童がまとめることができるようにしていく。そして、児童のノートから授業の指導法についても振り返ることを全職員で取り組むようにしていく。

・【読むことへの取り組み】
読むことに抵抗をもっている児童が多いため、週末の宿題などに文章問題に取り組ませたり、授業内容と関連して、読書活動の充実を図ったりしていく。

・【記述することへの取り組み】
どの教科も記述する問題の無回答率が高かったため、日頃の授業の中で、キーワードや文字数などの条件を与えて文章を書くような経験をさせていく。

・【書き込み指導の取り組み】何を問われているのか、キーワードや大事なところはどこなのかなどが分かるように、問題に書き込ませるようにしていく。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

・【学びの土台づくり】
児童の発達段階に合わせた「西っこカード」を全学年で活用し、基本的生活習慣作りに取り組んでいる。その中の生活習慣を身につけさせていく項目を児童の実態に合わせて変更したり、学習において大切な「読むこと・書くこと」への力をつけるために、「音読」や「日記」を毎日取り組ませたりしていく。そして、保護者にサインをしてもらうことで、家庭とも連携を取ることができる。

・【教員相互の学び合いの充実】
TT 授業や少人数授業授業を行うことで、教員同士が指導法や教材研究について学び合ったり、授業公開を参観して学んできたことを共有したりすることで、指導力向上を図っていく。

令和４年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取組について

武雄市立北方小学校

1　児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数		理科	
	５年時	６年時	５年時	６年時	５年時	６年時
H29 入学 現６年生	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）	県 （12 月）	全国 （４月）
	47.8	62	32.2	57		58
	(0.82)	(0.97)	(0.76)	(0.92)		(0.94)
R４正答率の全国比		0.95		0.90		0.92

◎５年時は佐賀県学習状況調査、６年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は県平均を１としての比較。

◎「令和４年正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

〇国語・算数・理科ともに県または全国平均を下回っている。

【国語について】

・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」項目においては、全国、県平均を 10 ポイント以上上回っており、漢字の定着はできている。

・「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」項目においては、正答率が高く、授業の中に交流活動を仕組んできたことが、成果として表れ始めていると考えられる。

・「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」という「書く」ことの正答率が低い。自分の考えを書く、資料をつなぎ合わせて書くということを苦手としている児童が多い。

（「書く」ことにおいては、全国、県の正答率も低い。）

【算数について】

・「式と計算」領域については県平均を上回っている問題もある。基礎的な事項は身に付いている。

・「図形」に関する項目は、正答率が低い。図形の基礎的な事項は理解できる。しかし、図形の形が変わり、変わった理由等を図形の基礎的な事項を入れて説明するような問題となると、苦手意識をもっている児童が多い。

・算数全体を通して、与えられた問題の中から、問われた内容と合致するような情報を選び出すことができていない。

【理科について】

・基礎的な事項は身に付いている。

・「得た情報を基に、自分の考えをもち、その内容を記述できる」「実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」の項目の正答率が低い。

・算数同様、与えられた問題の中から、問われた内容と合致するような情報を選び出すことができていない。

基礎的な部分については正答率が高いものもある。身に付けた理解が曖昧になっている部分もあるので、

定期的に復習をしていくことが必要である。また、自分の考えを 「書く」力を付けていくためには、自分の考えをもつことができなければならない。授業だけでなく、日常の活動においても、「自分の考えをもつ」「自分の考えを表現していく」場を、数多く設けていく必要があると考える。

2　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

○　自己の考えを形成するための授業実践

・今年度の校内研究のテーマである『自分の考えを形成し,主体的に伝え合う』部分に焦点を当てて取り組んでいく。具体的には、「①思考ツールを用いた思考力・表現力の育成」、「②ICT 機器の効果的な活用方法についての研究」の 2 点を中心に据える。

○　基礎基本の定着と活用力を育成する授業の実践

・「授業づくりのステップ 1･2･3　vol.1&2」を基本とした授業づくりに努める。授業の「めあて」を達成するまでの道筋をはっきりさせ、学んだことを「まとめる」という流れをしっかりと作る。

・必要な条件や具体的な書き方などを示した上で,「書く活動」を多く取り入れていく。

○　主体的な学びを促す環境の整備

・デジタル教科書やプレゼンテーションソフト、動画などを使い、問題の具体的な場面を想起させたり、実際には確認しにくいもの（理科など）を電子黒板を使って確認させたりすることで、学習への興味・関心を高めていく。

・学習環境を整備していく。既習事項や児童が身に付けなければならない学習用語などを掲示し、書いたり話したりする際の参考にさせていく。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

○　朝の時間「花まるタイム」で、思考力を高めるための問題や思考ツールを効果的に用いる技能を身に付けさせる活動を取り入れていく。目的意識をよりはっきりさせることで効果的な取組にしていく。

○　家庭におけるタイムマネジメント力の育成を図る。

（児童質問紙より）

・「普段(月～金)、１日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」

４時間以上と答えた児童・・・約２０％

・「学校の授業時間以外に、普段(月～金)、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」

３０分以上、１時間より少ないと答えた児童・・・約３５％

３０分より少ないと答えた児童　　・・・約６.５％

帰宅後のゲーム等の時間を減らし、学習する時間を少しでも増やしていこうとする意識の定着を目指し、夏休み明けから「生活チェック週間」を設定する。保護者の協力を得ながら、時間ごとに何をしたのか記録させていく。年間数回、設定していく予定である。